

企9

全自動便尿分析装置 オーションマルチ AA01 の紹介

◎横井聖¹⁾

アークレイマーケティング株式会社¹⁾

慢性腎臓病の指標である尿中アルブミン/クレアチン比、尿中蛋白/クレアチン比の測定は尿定量検査での実施が推奨されており、近年同検査の有用性が見直されています。また、大腸がんの検査では免疫学的反応を用いた便潜血検査が有用であるとされています。一方で、医療機関における尿定量検査、便潜血検査は、ともに大型の分析装置を用いた測定や外注検査が主流で、検査に時間や手間がかかる点、また設置場所やコスト等運用面で多くの課題があり、院内即時検査が可能な小型装置の開発が望まれていました。

このたび弊社は、尿定量試薬「マスターテストシリーズ」を用いて尿中の「総蛋白」「グルコース」「クレアチン」「アルブミン」を、便潜血試薬「ネスコートシリーズ」を用いて糞便中の「ヘモグロビン」「トランスフェリン」を測定できる小型の自動分析装置「ーションマルチ AA01」を開発いたしました。尿検体と便検体を最大6項目測定できるため（同時搭載は最大5項目）、院内での尿定量および便潜血検査の効率化を実現します。

<ーションマルチ AA01 の特長>

- 1台で2種類6項目の検査に迅速対応
尿定量検査4項目、便潜血検査2項目をそれぞれ最大90テスト/時間（サイクルタイム40秒）で実施。
- 置き場所を選ばない小型設計
装置本体の大きさはA2サイズ程度で、省スペース化を実現。
- 検査の省力化に貢献
尿定量検査、便潜血検査を一般検査室内で完結でき、業務の効率化を図ることが可能。また専用機であるため尿定量検査については血液によるコンタミネーションリスクも防止可能。
- 尿分注装置、尿定性検査システムとの連携
尿分注装置「ーションデイスペンサー UD-9440」、尿定性検査装置「ーションマックス AX-4061」との接続により尿検体分注から尿定性、定量検査を一連の工程で実施でき、TAT短縮を図ることが可能。さらに検査データ管理システム「メックネットミニアボ」との連携により、医療機関の運用にあわせたデータ管理を実現可能。